

概要

- 本県育成小麦品種「さぬきの夢2009」は、近年、タンパク質含有率にバラツキや低下が確認されており、タンパク質含有率の適正化が喫緊の課題であった。
- また、実需者からは、現行品種の「さぬきの夢2009」よりもより製麺適性に優れた新品种が求められていた。
- タンパク質含有率改善のため、実態調査を行い、主な原因が播種時期や施肥量にあることを確認し、適正管理指導を実施した結果、品質格差がやや是正された。
- 県農試で育成された後継候補品種について、現地適応性試験等から、製麺適性に優れていることを確認し、令和5年度に「さぬきの夢2023」として品種登録出願し、今後、全面切り替えに向け栽培支援等を行う。

具体的な成果

1 小麦「さぬきの夢2009」県内生産者への実態調査と基本技術の励行

■ 播種時期及び肥培管理状況

タンパク質含有率の低い生産者は、①適期よりも早い播種②施肥量が基準より少ない傾向がみられた。
「栽培しおり」に基づく適正施肥の指導により、含有率が3年間で0.5ポイント上昇し、品質格差が是正された。

2 基肥減肥・追肥重点技術の普及と適正タンパク質含有率の検討

■ 収量確保及びタンパク質含有率向上に向けた肥培管理

- ①実証ほ等の結果に基づく基肥減肥料・追肥重点体系の導入 **追肥2回体系**
- ②製麺適性及び麺の色調を踏まえた「さぬきの夢2009」の適正タンパク質含有率検討

3 小麦後継品種の育成・普及と切り替え推進

■ 加工適性等に優れる「さぬきの夢2023」（品種登録出願中）

- ①後継候補品種の選抜、普及に向けた肥培管理等実証ほの設置
令和3年度～ 県内3カ所
- ②後継品種として決定・品種登録出願 令和5年7月（出願公表5年10月）

■ 県内小麦の後継品種への切り替え

- ①「さぬきの米・麦づくり推進大会」等での研修及び切替周知 令和6年播きから一般栽培開始
- ②採種農業者への種子生産指導及び採種ほ設置運営指導 令和6年播き一般栽培種子確保見込み



栽培しおり

普及指導員の活動

令和3年度～

- 普及組織が中心に県内小麦生産ほ場171地点において、播種時期や肥培管理等の実態調査を実施
- 小麦後継品種の現地での栽培特性等把握に向けた調査実施
- 追肥省力化に向けた緩効性肥料の効果確認実施

令和4年度

- 実態調査や実証ほの結果等に基づく「さぬきの夢2009」の適正タンパク質含有率の検討及び設定

令和5年度～

- 後継品種の普及に向けた肥培管理等現地実証ほの運営
- 「推進大会」等での後継品種の特性等周知
- 後継品種種子の安定生産に向け採種農業者への指導
- 採種ほ場の設置運営指導等
- 令和6年播（7年産）から後継品種一般栽培開始



推進大会写真

普及指導員だからできたこと

- ・ 専門指導員と普及指導員が連携し、各地域の調査結果を比較することで県レベルでの格差是正が可能となった。
- ・ 各普及員が条件の異なる地域で現地適応性を確認することで、栽培適地を特定し推進することが可能となる。

香川県

小麦「さぬきの夢 2009」のタンパク質含有率の適正化と 後継品種の育成

活動期間：令和 3 年度～（継続中）

1. 取組の背景

本県の主力品種である県育成小麦品種「さぬきの夢 2009」は、地域によるタンパク質含有率のバラツキや低下が確認されており、タンパク質含有率の適正化を図ることが、喫緊の課題となっていた。

一方、県では、実需者からの要望を受け、県農業試験場において既存品種より製麺適性の高い新品種の育成を進めていたところ、後継品種候補が選抜された（現在、「さぬきの夢 2023」として品種登録出願中）。

そこで、令和 3 年度に重要課題として取り上げ、現行品種「さぬきの夢 2009」のタンパク質含有率の向上など、安定化を図るための実態調査を行うとともに、後継品種候補の現地適応性の確認を行った。

2. 活動内容（詳細）

1）県内小麦生産者への実態調査

タンパク質含有率の適正化を図るため、令和 3 年産小麦「さぬきの夢 2009」生産ほ場 171 地点において、関連性の高い①播種時期や施肥量等耕種概要を調査し、タンパク質含有率との関連性について分析した。

また、分析結果について、県の普及・研究機関及び行政部局で組織される「作物・特作部会」において協議し、タンパク質含有率の適正化に向け、現地での調査研究に取り組んだ。

2）基肥減肥・追肥重点体系の普及と適正タンパク質含有率の検討

収量確保及びタンパク質含有率の適正化に向けた肥培管理として、本県では令和 2 年産から、基肥減肥・追肥重点体系を導入し、「小麦栽培しおり」の作成、栽培講習会等を通じ本技術の普及を図った。

また、タンパク質含有率検討では、含有率の異なる小麦粉において、製麺適性評価を実施した。

評価項目を、実需者が求める「茹で麺の色調」、「麺の食感」として、「さぬきの夢 2009」での適正タンパク質含有率を検証した。

3）小麦後継品種の育成と切り替え推進

県農業試験場が育成した品種が製麺適性に優れることが確認されたため、「さぬきの夢 2009」の後継候補品種（「さぬきの夢 2023」品種登録出願中）として、令和 3 年から県内 3 カ所において現地適応性試験ほを設置し、令和 5 年からは本品種への切り替えに向けて、現地での肥培管理等の実証ほ等を設置した。

3. 具体的な成果（詳細）

1) 小麦「さぬきの夢 2009」の実態調査に基づく基本技術励行

タンパク質含有率の低い場合は、①播種時期が「小麦栽培しおり」等の適期（11月15日）より早い、②施肥量が基準量より少ない傾向であった。

この調査結果を踏まえ、適期播種や「小麦栽培しおり」に基づく肥培管理を徹底するよう指導した。この結果、タンパク質含有率が低かった地域が令和2年産と比較し、令和5年産には0.5%向上し、品質格差が是正された。

2) 基肥減肥・追肥重点体系の普及と適正タンパク質含有率の検討

「小麦栽培しおり」や栽培講習会等を通じ、基肥減肥・追肥重点体系を重点的に指導し、タンパク質含有率の適正化が図られた。

さらに、近年の温暖化による生育状況に応じた追肥時期・施用量、多雨傾向による排水対策等の徹底等、小麦の生育期間に専門指導員から「技術情報」としてタイムリーな情報提供を図った。

適正タンパク質含有率は、実需者が求める「茹で麺の色調」、「麺の食感」を中心に検証し、令和4年度に目標値を設定し、JA 香川県等関係団体と連携し、実需者が求める小麦生産に努めている。



栽培しおり

3) 小麦後継品種の育成と切り替え推進

継候補品種は、現行品種「さぬきの夢 2009」と比較し製麺適性に優れ、特に原麦タンパク質含有率が高く、実需者が求める小麦の安定生産が期待されることから、後継の新品种「さぬきの夢 2023」として、令和5年7月に品種登録出願し、同年10月に出願公表された。

また、令和6年播からの一般栽培開始に向けて、現地では施肥法等の実証は設置、さらには種子生産を開始し令和8年播の全面切替に向け、JA 香川県等関係団体と連携し小麦生産者への周知を図っている。

専門指導員は、現場での実証等の結果を踏まえ、普及に向けた「さぬきの夢 2023」の栽培体系の確立を図っている。



香川県農業試験場育成小麦品種

4. 農家等からの評価・コメント（丸亀市 S 氏）

小麦のタンパク質含有率の適正化は、経営所得安定対策の数量払（ランク区分）からも、重要な課題である。

高品質小麦生産に向けて、「栽培しおり」に基づく基本技術の励行を徹底する。

また、「さぬきの夢 2023」はタンパク質含有率が高い品種であり、本品種導入が生産者の経営安定にも寄与するため、早く作付けしたい。



さぬきの米・麦づくり推進大会

5. 普及指導員のコメント（農業経営課・主席専門指導員・三木洋）

「普及・研究・行政」と連携し、農業革新支援専門員が課題解決に向け、県域レベルでの技術対策指導、普及指導員が各地域において技術指導を実施した。

その結果、小麦「さぬきの夢 2009」ではタンパク質含有率の低い地域で向上が見られるなど、一定の改善が確認された。引き続き小麦生産者には「基本技術の励行」を働きかけていく。

さらに、今後は後継の新品種「さぬきの夢 2023」の普及により、生産者、実需者双方が望む小麦生産を推進していく。

6. 現状・今後の展開等

「さぬきの夢2023」に全面切り替えとなるまでの期間、現行の「さぬきの夢2009」は、引き続き「基本技術の励行」により、実需者が求める高品質小麦の生産に努める。

さらに、新品種「さぬきの夢2023」についても、これまで「さぬきの夢2009」で培ったタンパク質含有率の適正化技術をもとに、実需者ニーズに即した製麺適性が維持できるよう栽培支援を行っていく。